

(水)にかけてテネシー州ノックスビルにて年次大会を開催した。本大会は50周年記念大会であり、また、COVID-19の影響により3年ぶりの対面方式での開催となった。

セッションについてはCOVID-19を含め健康に関するテーマが例年よりも多く、著者が確認する限り、全22セッション中6セッションが健康に関するものであり、さらに、それ以外のセッションにおいてもCOVID-19について言及しているものが散見された。

なお、著者は開催2日目の10月18日火曜日に「An Analysis on the Compatibility of Depopulated Area Requirements in Japan as an Indicator of the Risk of Becoming Uninhabited」と題し研究報告を行い、人口学に限らず社会学や地理学など多くの分野の研究者から有益な意見や情報を得ることができた。

今回の大会は2023年の10月に開催予定であるが、開催地については大会中に報告がなかった。そのため、次回大会の詳細については学会公式ホームページ (<https://sda-demography.org/>) にて確認されたい。
(井上 希 記)

第87回日本健康学会総会

2022年11月3日(祝・木)～4日(金)に、東京・五反田の東京医療保健大学にて開催された、第87回日本健康学会総会に参加した。会長講演に続き、シンポジウム「疾病・障害とともに働く一どう働くのか、どう支えるのか」、「医療・福祉職の暮らしと仕事」、「持続可能で安全、健康なまちづくり」、一般演題、ポスター報告が行われた。同じ時間には一つのセッションしかなく、全ての参加者が同じ内容を共有し、これは小規模学会の長所であると感じられた。筆者は「日本における複合死因の概況と死因簡単分類別分析」と題する一般演題報告を行った。開催はハイブリッド形式で総参加者数112名のうち、76名は対面で参加したとのことで、オンライン、対面、それぞれの利点が活かされたと思われる。
(林 玲子 記)